

「注意と認知」研究会 第20回研究会プログラム

(2022年3月14日～15日 ハイブリッド開催・ホテル機山館)

| | 受付 | 9:30 | | |
|------------------|-------------------------|-------------|----|---|
| 14 MON | 知覚と 認知一般 | 10:00-10:30 | 1 | 逆ジオラマ効果：幾何学模様が付された立体物のサイズは、写真では過大視される 大谷智子（明治大学） |
| | | 10:30-11:00 | 2 | 連続提示顔の変形効果に影響する顔部位の検討 鈴木萌々香（中京大学） |
| | | 11:00-11:30 | 3 | 抑うつ状態が視覚刺激に対する脳波反応に及ぼす影響 岡本大輝（東海大学） |
| | | 11:30-12:00 | 4 | 複雑な情報統合における群衆の智慧と集団意思決定 濱田大佐（関西学院大学） |
| 昼食 | | | | |
| | 【記念企画】 | 13:00-14:30 | 14 | 注意と認知研究会全史 齋木潤（京都大学）、河原純一郎（北海道大学）、熊田孝恒（京都大学） |
| | 注意や 記憶の 特性 (1) | 14:45-15:15 | 5 | 相対的な位置関係の手がかりが探索を促進する 前澤知輝（北海道大学） |
| | | 15:15-15:45 | 6 | 積極的抑制か探索後抑制かは手がかりの有効度に依存する 反田智之（北海道大学） |
| | | 15:45-16:15 | 7 | 視覚的採集課題を用いた視覚情報探索の最適化に関する検討 小林穂波（関西学院大学） |
| 15 TUE | 注意や 記憶の 特性 (2) | 10:00-10:30 | 8 | RSVP系列におけるディストラクタの挿入がアイテムとその順序の記憶に及ぼす影響 高瀬愛理（筑波大学） |
| | | 10:30-11:00 | 9 | 時間的に連続する事象間の共通性が視覚統計学習に与える影響 中川令実（関西学院大学） |
| | | 11:00-11:30 | 10 | 共同視覚探索における他者の標的刺激に関する記憶 坂田千文（京都大学） |
| 昼食・運営委員会 | | | | |
| | 視覚と行為 の相互作用 | 13:30-14:00 | 11 | 脅威知覚と誤反応の生起についての検討 光松秀倫（名古屋大学） |
| | 感覚間相互 作用 | 14:00-14:30 | 12 | 視聴覚入力の時間的統合における感覚間協応の役割 宇野究人（東京大学） |
| | 魅力・情 動・美感 | 14:30-15:00 | 13 | 絵画美の無意識的な処理過程：連続フラッシュ抑制と視線計測を用いた検討 津田裕之（慶應義塾大学） |